

オンタリオ警察署長協会 (OPCA)、2008年の R.I.D.E.(Reduce Impaired Driving Everywhere)安全運転運動

オンタリオ州の警察署首脳たちは昨日トロントの Rogers センターで、2008年 R.I.D.E.(Reduce Impaired Driving Everywhere)安全運転運動を、安全な帰宅はドライバー達が安全運転の習慣を州内の路上で励行することにかかっているという、州内のドライバーに対する明瞭なメッセージを発して開始した。

市警署長で、OPCAの会長 William Blair は、「すべてのドライバーが、他のドライバーの安全な帰宅にとって重大な責任を持っていることを認識して欲しい。法執行機関が実行できる交通安全対策は一部にしか過ぎない。ドライバーがハンドルを握るときの判断で、人々の生活を一変させるかどうかが決まるのだ。」と語った。

トロントブルージェイズの社長兼代表取締役の Paul Godfrey および多くの警察官、多くのコーポレート およびコミュニティー支援者たちが Blair 署長と同席した。全州の警察署は陸上、水上で行う R.I.D.E.検問で「安全運転」に関する情報を盛った小冊子を配布する。

この小冊子には、交通安全に関連する以下のような情報が盛り込まれている。

- ・ 運転に集中しよう。
- ・ 乱暴な運転、速度違反はしない。
- ・ 緊急車両には道を譲ろう。
- ・ 事故は報告しよう。
- ・ 友人との、安全に関する集まりのヒント。
- ・ 運転するのが不適當な人を見つけよう。
- ・ 不注意な運転、酒気帯び、酒酔い運転による不幸な結果を避けよう。

OPCAの第一副会長であるサドバリー警察の Ian Davidson 署長は、「“あなたの通報が最後の手段です”という標語に現れているように、われわれオンタリオ州の警察署長達のドライバーに対する呼びかけは、法執行機関のみが交通安全の責任を持っているのではないということだ。自動車の運転は特典であると同時に責任を意味している。われわれすべてが、それぞれの立場で事故による悲劇を防ぐことが出来るのだ。」

小冊子の配布のほかに、安全運転に関するポスターが州内 600 箇所の LCBO 店舗、保険仲介事務所、政府事務所、警察署およびいくつかの支援団体の事務所に張り出される。

JSS 説明

自動車事故の多くは、酒気帯びないし酒酔い運転、速度違反、無謀運転が原因であるといわれている。

OPCA は安全な交通の実現に関して、無謀運転や速度違反と共に、特に酒気帯びないし酒酔い運件の撲滅に重点を置くというのがこの記事の主旨である。

特に警察が呼びかけているのは、酒酔い運転に関する通報制度である。地域によっては法令や取り扱いに違いがあるようだが、たとえばヨーク郡や州警察管轄道路では、酒酔いと疑わしいドライバーを見たら 911 通報が許されており、この制度のおかげで酒酔いないしはその他の事由での逮捕が増しているという。

酒酔い運転は、運転者自身が責任と自覚を持って「しない」事が大切だが、記事にある「**Last Call is Your Call**」といった呼びかけは、発見者が傍観するのではなく、通報を奨励しているに他ならない。

なお、先週展開された交通安全運動では速度違反でほぼ 6000 枚、無謀運転で約 1600 の交通切符がトロント市内で切られている。